

「一流になりなさい。それには、一流だと思い込むことだ」という本からです

自分と対話する。すべての答えは自分のなかにあるのだから。

素晴らしい経営者や成功者は、自分自身との対話を日頃から積み重ねている人たちだと思います。自分の心のなかに描いている高い理想と現状を見比べて、なぜそこにギャップがあるのか、何が課題なのかを、自己との対話で解決しようとしています。「どんなことでも、すべての答えは自分のなかにあるものだよ。それを自分で引き出せばいいよ」

それは、部下との関係に少々悩み、疲れているときでした。すべてのことは、スパイラルに、そして確実に進化していくものです。スパイラルとは、螺旋のことですが、物事は一直線に右上がりによくなるものではありません。上がり、下がり、を繰り返しながらスパイラルに、右上がり成長していくのです。下降していくときも一直線、真っ逆さまに落ちていくではありません。スパイラルに落ちていきます。企業の成長も、人間の成長も同様です。とすると、「いま」をみるときにスパイラルの上がったところで判断するのか、下がったところで判断するのかによってまったく違う判断になります。

確実にスパイラルの傾向線は右上がり。マクロにみれば、上昇局面、改善局面にあるときでも、ミクロの瞬間の下がったところで、問題点を羅列する人もいます。「すべてはスパイラルに進化するのですよ。君が言っているのは、ミクロの、ほらこの絵を見てよ、この点のところを言っているのだよ」プラス発想人間だけの集団では、怖いときもあるかもしれない、そんなことを言う人もいますが、マイナス発想人間と付き合うのは大変だな、とっていました。とくに、ミクロ型マイナス発想人間！どう対処するのか？そんな小さな愚痴を船井先生に話したとき、そう言われたのです。「自分のなかに、答えがありますか？」「うん。佐藤君のなかに、そんなことへの対処の答えもある。どうなればよいのか、それをまず頭に描いて、それから問いかけてごらん」高い理想をもちましょう。

これは、どんな人たちにも語りかけていたことです。理想には、高い理想と低い理想があります。思い描けるもっとも高い理想をいつも描くのです。そう語り続けています。「よい言葉だ。確かに高い理想をもちつづけると、人間はジャンプして届こうと努力をするものだ」船井先生にそう言われて、少々得意になっていました。でも、浅いのだなと、心から思えました。どんな人間との関係にでも、高い理想をもって臨むものだ。そう思ったのです。

ミクロ型マイナス発想、いまの自分がそうじゃないか。いやだなと逃げたって、なんの解決にもならない。「自分と対話をするとわかるよ。対話を始めたときには、答えは見えていると」逃げず、どんな課題にも解決点があると確信する。それは一つの高い理想です。難題だって解決点があると確信し、いくつかの仮説をもって自分との対話をスタートするのです。「どうして思うようにならないのか？なぜ理解されないのか？なぜその人間が好きになれないのか？なぜ……。そう発した瞬間に実は答えにいきつくんだ」すべての答えは、自分のなかにある。一歩進んで言えば、すべての課題の原因は自分にあると考えて、自分と客観的に会話をすればよいのか。

「解決できない課題はやってこないと考えればいい。答えは、自分が教えてくれるさ」ちゃんと自立しなければいけないな、そう自然に思えた瞬間でした。どんなことにも、仮説をもって臨まなければ、一人前ではない。それは、自分と対話して、自分で納得できる答えを出す入口なのです。すべての答えは、自分のなかにある。すべてを、自分の責任としてとらえる。それが、とても大変なことだと、ようやくわかりはじめていたのかもしれない。

カッコ内を埋めてください

どんなことにも、() 臨まなければ、() ではない。